

# THERMAL

## CONTENTS

### 事故報告

去る6月8日、県内エリアにてフライヤーの死亡事故が発生しました。皆さんに報告するとともに、今後より一層の安全対策を立てていただくようよろしくお願いいたします。

項目	内容
所属クラブ	泉ヶ岳パラグライダークラブ
年齢	56歳
フライト歴	11年(パイロット証取得1996年)
事故発生日	2002年6月8日 AM11時40分頃
事故発生場所	泉ヶ岳スキー場 兔平テイクオフより30m位下
事故当時の気象条件	晴れ 東の風 4m サーマルブロー有
フライト目的	サンデーフライヤーの休日フライト
事故後の対応	墜落直後にヘリコプターでの救急搬送を要請
事故者の怪我の程度	骨盤骨折・胸部骨折、内出血多量のため、2002年6月8日PM7時3分死亡
事故状況	1本目のフライトを終え、2本目のフライト時。テイクオフ30m位前で左の翼が半分くらい潰され、左に一回転し、回復したかに見えたが直後に右の翼が潰れ、右に回転しながら斜面に激突。

また、6月9日緊急に県連理事会を開き、各スクール・クラブ等でも以下の対策をより徹底していただくこととしました。

また、基本的なこととして、滑落防止レッグベルト付きハーネスやフルフェイスヘルメットを使用することは一層徹底していただきたいと思えます。

1. 風向きに対し、適当な場所に機体のセッティングの位置をこまめに変える
2. サーマルブローの最大秒速及びサーマルブローの間隔を見る
3. ホームエリア内での風向きによるローターの発生場所を認識する
4. 自分の納得のいく風速のときにテイクオフするようにする
5. パイロットといっても個人差があるので、「この風で飛ばないの？」などと挑発しない
6. 上記の件で納得がいかなかったり自信がなかったりした場合はフライトをしないこと

JHF 発行の教本をもう一度読み直し、初心にかえって自分の安全対策を見直そう！

**「単独では大事に至らない小さな見落としやミスでも、複数の要素が重なって事故は起きる。フライヤーは、危険につながる要素を1つでも多く取り除いていかなければならない」**